

ステータス:	終了	開始日:	2009/05/27
優先度:	通常	期日:	
担当者:		進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:			
説明			
OpenRTM-aist-1.0.0-RC1にて、RTコンポーネントのログを出力したい場合、rtc.confのlogger.log_levelを設定する必要がある。 logger.log_levelを設定していない場合、空のログファイルが作成される。			

履歴

#1 - 2009/07/27 19:48 - kurihara

- ステータス を 新規 から フィードバック に変更

7/27現在での最新バージョン(リビジョン1476)では、下記の現象が起きている。

(下記はrtc.confにて、logger.enable: yes と指定済みである。)

- logger.log_levelをPARANOID以外に設定した場合、空のログファイルが作成される。(PARANOIDを設定した場合はログがログファイルに書き出されている。)
- logger.log_levelを設定せずに、logger.file_name: rtc.log, stdoutのように標準出力にもログ出力を行うように設定した場合、ログレベルがPARANOID以下のログが標準出力にだけ出力される。このときも、rtc.logファイルは作成されるが空である。

#2 - 2009/07/28 10:17 - 匿名ユーザー

- 担当者 を 匿名ユーザー にセット

- 空のログファイルが生成される不具合について
coil::LogStreamBuffer で ログが flush されていないようです。調査して報告します。

#3 - 2009/07/28 16:42 - 匿名ユーザー

- 原因
coil::LogStreamBuffer::sync() でバッファの内容を flush していないため発生していた。
呼び出し側で coil::LogStreamBuffer::addStream に追加した Stream を close した場合は、ファイルにログが残るが、close が行われずに終了した場合、ファイルが空になる。
- 対策
coil::LogStreamBuffer::sync() から呼び出される stream_sputn() で pubsync() の呼び出しを追加。(pubsync() はデバイスにバッファの内容を書き込む。)
- 確認
coilのunitテストでログがファイルに出力されることを確認。(posix版,win32版の両方で確認。)
examples の ConsileOutComp で rtc.conf の logger.log_level を DEBUG,INFO にして実行し、ファイルのログが出力されていることを確認。(posix版,win32版の両方で確認。)

#4 - 2009/08/03 08:56 - 匿名ユーザー

- ステータス を フィードバック から 解決 に変更

- 進捗率 を 0 から 100 に変更

#5 - 2009/08/03 12:02 - n-ando

- ステータス を 解決 から 終了 に変更

#6 - 2010/03/09 13:52 - 匿名ユーザー

[r1480](#)